

大学読書人大賞だよ

# リーどみー

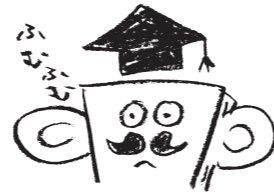
Read me

《 候補作品決定号 》

Information  
講演会のお知らせ

## 大学読書人大賞メッタ斬り？

文芸サークルの皆さんが、「大学読書人大賞」の推薦文を書く参考にしてもらうための、講演会を開催します。ぜひご参加ください。



日時 2012年1月15日(日)  
15:30開場 16:00開会 18:00終了  
会場 日本出版クラブ会館 3階 鳳凰の間  
(東京都新宿区袋町6 TEL 03-3267-6111)  
最寄駅 地下鉄大江戸線「牛込神楽坂駅」、  
地下鉄東西線「神楽坂駅」、  
JR、地下鉄有楽町線・南北線「飯田橋駅」

講演者 **豊崎由美さん**  
(とよざき・ゆみ)  
ライター、ブックレビュアー。  
1961年、愛知県生まれ。  
「GINZA」「本の雑誌」「TV Bros.」などで書評を  
多数連載。著書に、『ニッポンの書評』(光文社  
新書)など、共著に、『読まずに小説書けますか』  
(メディアファクトリー)、『文学賞メッタ斬り!』  
シリーズ(パルコ出版)などがある。



演題 推薦文の書き方 &  
大学読書人大賞メッタ斬り!  
参加無料(事前の申込みが必要です)

講演会に参加いただけるのは、大学文芸サークル員と、  
出版関係者の皆さんです。参加希望のサークルは、下記  
「大学読書人大賞」メールアドレスまで、サークル毎にお  
申込みください。お申込みの際はメール本文に、代表者  
のお名前、大学名、サークル名、参加希望メンバー全員  
のお名前をご記入ください。

申込み締切りは、1月11日(水)です

事前にお申込みの方以外は入場できません。申込み多数  
の場合は、事前に人数制限のご連絡をさせていただく場  
合があります。

申込みはこちらまで! ▶▶▶ 「大学読書人大賞」メールアドレス: dokushojin@jpic.or.jp

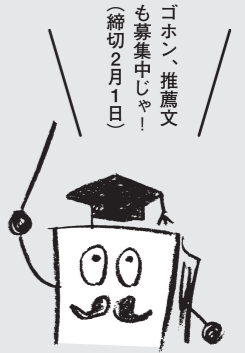
## 「2012大学読書人大賞」の投票作品で、惜しくも候補に選ばれなかった15冊



作品名(タイトル五十音順)	著者名	出版社	発行月
あなたのための物語	長谷敏司	ハヤカワ文庫	2011年6月
虚構推理	城平京	講談社ノベルス	2011年5月
苦役列車	西村賢太	新潮社	2011年1月
恋文の技術	森見登美彦	ポプラ文庫	2011年4月
九つの、物語	橋本紡	集英社文庫	2011年2月
言壺	神林長平	ハヤカワ文庫	2011年6月
太陽の坐る場所	辻村深月	文春文庫	2011年6月
長い終わりが始まる	山崎ナオコーラ	講談社文庫	2011年10月
根津権現裏	藤澤清造	新潮文庫	2011年7月
儂い羊たちの祝宴	米澤穂信	新潮文庫	2011年7月
恥知らずのパープルヘイズ	上遠野浩平	集英社	2011年9月
美女と竹林	森見登美彦	光文社文庫	2010年12月
本日は大安なり	辻村深月	角川書店	2011年2月
マスカレード・ホテル	東野圭吾	集英社	2011年9月
メルカトルかく語りき	麻耶雄嵩	講談社ノベルス	2011年5月

2012  
大学読書人大賞  
全18候補作品  
大発表!!

詳しくは裏面参照



今年から「大学読書人大賞」の選定方法を一部変更しま  
した。「ただの人気投票になってしまっていないか?」「候  
補作品に選ばれる入口が狭いのではないか?」というよ  
うな声をもとに、12月1日に締め切った1次投票の得票上位  
18作品を候補作品としました。(昨年までは5~6作品)  
文芸サークルの皆さんは、あらためて候補作品をお読み  
いただき、各サークル毎に、「大学生にぜひ読んでほしい」  
と思う作品を、最大5作品まで選んで推薦文をお書きくだ  
さい。推薦文は、800~1600字でお書きいただき、E-mail  
で大学読書人大賞のアドレス(dokushojin@jpic.or.jp)ま  
でお送りください。送っていただいた推薦文はホームペ  
ージ等で公開させていただく場合があります。

推薦文の送付には、1次投票に参加しなかったサーク  
ルでも参加できます!

推薦文締切:2012年2月1日

### ＜今後の選考方法＞

- ・お送りいただいた推薦文が多かった上位5作品(4~6作  
品の可能性あり)を、最終候補作品としてノミネートし、  
5作品の推薦文を、すべてホームページ上で公開します。
- ・公開した推薦文をお読みいただき、作品ごとに、最も  
優れていると思った推薦文を、サークルごとに1つずつ  
選んで投票してもらいます。推薦文を送ってくれたサー  
クルにのみ投票権があります。  
→投票締切:3月1日。
- ・作品ごとに最も得票の多かった推薦文を「最優秀推薦  
文」に決定。その推薦文を執筆したサークルの代表者  
に集まってお読みいただき、公開討論会を行います(4月下旬  
東京予定)。討論会参加者5人の投票によって、「大学  
読書人大賞」1作品を決定します。
- ・大賞受賞作家を招いて贈賞式を行います(6月)。  
→最優秀推薦文に選ばれたサークルには、贈賞式の席  
上、図書カードを贈呈します。(大賞作品に5万円、  
その他4作品に各3万円)  
→公開討論会と贈賞式にご参加いただくため、各サー  
クル1名分の交通費と宿泊費を負担いたします。

「大学読書人大賞」の  
1年

### 一次投票

この1年間に発行された  
本の中から「大学生に最も  
読んでほしい本」を、最大  
5作品まで投票

### 二次投票

候補作品(18作品)の  
中から、最大5作品までを  
選んで、推薦文を執筆・投票

### 三次投票

公開された推薦文を読む  
優れている推薦文に投票

### 公開討論会

最優秀推薦文  
執筆サークルの  
代表者達による討論会

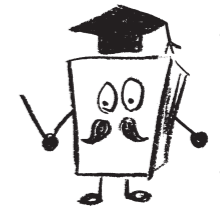
### 贈賞式

大賞作品の作家さんを  
招いての贈賞式

わー。どれから  
読もうかしら。  
あれもこれも  
読んでみたいわ。  
だって、べらべら…



# 決定！「2012 大学読書人大賞」 候補 18 作品 (作品名五十音順、定価はすべて税込)



「ゴホン。  
いよいよじゃな。」



## 『馬たちよ、それでも光は無垢で』

古川日出男 新潮社  
1,260円 2011年7月刊

福島県の震災から1ヶ月後、作者は東北へと向かう。マスクの人々、見えない放射能、傷ついた馬たち。そして作者に、かつて執筆した『聖家族』の主人公がかく語る。小説を書く人々すべてに読んで欲しい一冊です。



## 『折れた竜骨』

米澤穂信 東京創元社  
1,890円 2010年11月刊

舞台は中世ヨーロッパを思わせる、人々が闇を、魔を、未知を恐れる暗黒の時代。そんな時代に主人公は一人、近代的な理性を武器にどこまで戦うことができるのか。「ダーシー卿」を思わせるファンタジームステリの傑作。



## 『神様のカルテ』

夏川草介 小学館文庫  
580円 2011年6月刊

栗原一止は、信州松本の地域医療を担う本庄病院に勤務する内科医である。この病院でどんな患者でも診てやりたいと考え、きりぎり舞いで働く一止に、大学医局で最先端医療を学ばないかと声がかかる……。



## 『青年のための読書クラブ』

桜庭一樹 新潮文庫  
460円 2011年7月刊

ミッション系のお嬢学校「聖マリアナ学園」を舞台に、数々の事件の背後で秘密裏に活躍した「読書クラブ」。学園の創設から消滅までの百年にわたり活躍した異端の少女たちの理論武装の歴史を描いた物語……！



## 『ディスコ探偵水曜日』上・中・下

舞城王太郎 新潮文庫  
580・660・820円 2011年2月刊

ディスコウェンズデイ。自称迷子探偵。ある水曜日、彼と共に暮らす6歳の少女、梢の体が急に成長を遂げ、意識が未来の彼女と入れ替わるといふ現象が起こる。しかしこれはディスコが挑む謎の始まりでしかなかった。



## 『天帝のはしたなき果実』

古野まほろ 幻冬舎文庫  
1,040円 2011年10月刊

豪華爛爛、戦中国体制SF設定の青春学園本格ミステリ！メフィスト賞受賞、著者デビュー作が完全改稿され新たな顔を見せる！独特の文体、踊るルビにより、選ばれた読者のみがたどり着く驚きの結末！



## 『県庁おもてなし課』

有川浩 角川書店  
1,680円 2011年3月刊

観光立県を目指しとある県庁で生まれた“おもてなし課”。若手職員の水掛史貴は地元出身の作家にアドバイスされ、伝説となっている地域振興プランへとたどり着く。お役所と民間の狭間で揺れる水掛がとった行動とは？



## 『これはペンです』

円城塔 新潮社  
1,470円 2011年9月刊

文章の自動生成装置を発明した叔父とその姪。存在しない街を克明に幻視する父とその息子。「言葉」を手がかりに繋がることとする家族を通して読むこと、書くことの根源を照らし出し、言葉と人々を包み込む2つの物語。



## 『ジェノサイド』

高野和明 角川書店  
1,890円 2011年3月刊

人類が絶滅する可能性について書かれたハイズマン・レポート。父を失った大学院生と息子を失わないために戦う傭兵の運命が、レポートによって交錯する。その中で二人は人類の新たな可能性を見る。



## 『図書館戦争』

有川浩 角川文庫  
700円 2011年4月刊

図書館の自由が侵される時、我々は団結して、あくまで自由を守る。公序良俗を乱し、人権を侵害する表現を取り締まる法律として「メディア良化法」が施行された現代。表現の自由を守るために、図書隊は奮闘する。



## 『ハーモニー』

伊藤計劃 ハヤカワ文庫  
756円 2010年12月刊

21世紀後半、世界的混乱を経て、人類は大規模な福祉厚生社会を築く。そんな見せかけの優しさが氾濫する世界で、少女たちは自殺を試みる。世界の混乱の陰に死ねなかった少女は、ただ一人死んだはずの少女の影を見る。



## 『ばらばら死体の夜』

桜庭一樹 集英社  
1,575円 2011年5月刊

「もっと、もっと、ばらばらにしてあげなくてはならないのです」。舞台はほんの2、3年前。人間が金に引き裂かれ、「ばらばら」になってしまう時代。「三百万円」という金額の重みを現実以上にリアルに描いた怪作。



## 『下町ロケット』

池井戸潤 小学館  
1,785円 2010年11月刊

その特許がなければロケットは飛ばない——。最先端特許を取得した町工場は資金繰り、法廷闘争、内部分裂や企業買収とまさに崖っぷち。モノ作りに情熱を燃やし続ける男たちの意地とプライドを賭した戦いがここにある。



## 『少女不十分』

西尾維新 講談社ノベルス  
882円 2011年9月刊

作家である僕が10年前を語る——『少女不十分』についてこれ以上語るのには野暮、というものでしょう。すでに野暮かもしれませんが、私がただひとつこの本にいえことは、ネタバレ厳禁！この一語に尽きます。



## 『すべて真夜中の恋人たち』

川上未映子 講談社  
1,680円 2011年10月刊

会社をやめ、フリーランスの校閲者になった冬子は三束さんという男性に出会い、そしてそれをきっかけとして彼女の殻は少しずつ柔らかくなっていく。途方にくれるほど長い夜を、ゆっくりと歩いていく恋愛小説。



## 『ピブリア古書堂の事件手帖』

三上延 メディアワークス文庫  
620円 2011年3月刊

極度の人見知り篠川葉子が店主を務める「ピブリア古書堂」。本が読めない「体質」の五浦大輔は、祖母が残した「漱石全集」の査定を通してアルバイトを始める。訪れる奇妙な客と本をめぐる謎を解き明かすミステリー。



## 『モダンタイムス』上・下

伊坂幸太郎 講談社文庫  
590・690円 2011年10月刊

システムエンジニアの渡辺は、ある日妻が雇った謎の男から拷問を受ける。得体の知れない妻の行動、上司の失踪、同僚の逮捕……。仕事でプログラム解析をしている途中で見つけた不可解なコードから、全ては始まっていた！



## 『リトル・ピープルの時代』

宇野常寛 幻冬舎  
2,310円 2011年7月刊

春樹曰く、「もうビッグブラザーの出る幕はない」。ポップカルチャーを手掛かりに〈拡張現実の時代〉を読み解く、若手言論のシーンを代表する快作。作者の説く想像力で、私たちは世界を変えることができる。